

2022/1/30

(オマケの英語教室 in spite of spy) 書庫版



「in spite of spy」

(スパイにもかかわらず)

「なんのこっちゃ？あん？」

とお思いの方も多いかと存じます。

後ほどご説明申し上げますが、その前にまず spy という単語の使い方を少々。

意外かもしれませんが spy というのは英会話の中では非常に身近な単語です。

何も 007 が活躍する世界に生きていなくても、いとも簡単に日常的に遭遇する単語なのです。

例えば日本語で言う「見て見ぬふり」「チラ見」「盗み見」「気づいているのに気づかぬふり」をしているが、実のところは全身目と化し耳となっている状態」「偵察する」「隠密行動」「様子見」「様子伺い」「抜き足差し足忍び足モード」「隣は何をする人ぞモード」など。

これらの行為は英会話の中では全てこの spy の一語で表せます。

See, look at, watch など表の世界での「見る」に対して裏で秘密裏にする行為の「見る」は殆どがこの spy で表すことができるのです。

で、ここからが表題 in spite of spy の前半部分の in spite of のお話です。

「in spite of」はわが国の教科書では「にもかかわらず」と出ております。

他には despite of というのも同じ「にもかかわらず」とも出ております。

この二つの場合は of の後ろに名詞が来ますが、同じ「にもかかわらず」と訳される nevertheless の場合には大抵後ろに文章が来ることが多いです。

そこでまず in spite of や despite of に共通して出てくる spite とはどういう意味なのかです

が、これは

「悪意」とか「(悪意が導き出す) 極めて困難な状況」を表しております。

Spite=悪意。Spy=スパイ、諜報員、密偵。

何か似ていませんか？共通する「sp.」があらわす何かが。

で、更に in spite of の in を increasing(増加)と仮定すると in spite of は「悪意(悪条件)が増えているにもかかわらず」と取れますし、despite of の de が decreasing(減少)を表していると仮定すると「悪意(悪条件)が減少し、好条件がそろい始めているにもかかわらず」と逆の設定での「にもかかわらず」を表していそうな気がしてきます。

この伝で行くと冒頭の in spite of spy の訳は

「スパイにもかかわらず」

は

「スパイ行為に晒されている(不利な立場)にもかかわらず」

の方が妥当の様な気がしますし

仮に despite of spy

なら

「スパイ(という有利な立場)のくせに」「スパイなのに」

とも言えそうです。

では、後に文章が来る場合が多いと述べた nevertheless を使った「にもかかわらず」の場合はどうでしょう？

この場合 nevertheless を never + the less と分解してみると「無いことは決してない」と訳せ、言い換えればその逆で「あって当然にもかかわらず」と解せそうです。

しかし、実際の処この推論があっているかどうかは分かりません。

分かりませんが、まずは何も見ずに(調べずに)独力で自分なりにこういった推論を立てて英語を見てみると結構面白い仮説が出来たり新しい発見があったりしましたので「そうした学びの楽しみ方もあるみたいですよ」という事を申し上げたかったので、今回はいたづらがてらに書いてみました。

正解は皆様方で調べてみるのも一興かと存じます。